

令和5年度 江別市スポーツ推進計画（第6期）推進状況報告書

計画期間 令和元年度～令和5年度

- 基本方針：**
- 1 いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも自発的にスポーツに親しみ、心身ともに健康で、明るく、こころ豊かに暮らせるよう、全ての市民がスポーツ活動を通じ、健康づくりや運動習慣の実践、その定着化を目指す。
 - 2 スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことで、市民が「楽しさ」、「喜び」を実感し、社会との絆や関わりを深め、共生社会の実現や新たなまちづくりに活かす取組に参画することを目指す。
 - 3 スポーツの価値や力を活かし、更なる市民スポーツ活動の活性化を図る。

市民が生涯にわたってスポーツを気軽に行える場を提供し、心身ともに健やかで充実した生活を営めるよう、3つの基本目標に基づき計画を推進しています。

基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進

【基本目標Ⅰで目指すこと】

生涯各期（幼児・青少年・成人・高齢者の各期）におけるスポーツを「する」機会を提供するため、発達段階やライフスタイルに応じた多様な参加機会の拡充を図ります。

また、スポーツを習慣化していくための取組として、スポーツ教室などの活動内容や指導体制の充実を図ります。

さらに、生涯スポーツ、学校における体育・スポーツ、競技スポーツ、障がい者のスポーツ、女性のスポーツといった領域に着目した多様なニーズに応えるため、関係機関・団体との連携強化や指導人材の養成、活用により、競技者の育成・発掘、各種イベントや大会の振興を図り、各領域における活動機会の充実を図ります。

◆成果指標1 週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合

現状値（H29年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R5年度）
39.8%	49.2%	42.6%	43.0%	44.2%	42.7%	

指標：江別市まちづくり市民アンケート

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

・令和5年度は、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供しました。スポーツ教室はメニューの見直しなどを行い、より参加しやすい教室になるよう工夫しています。

・各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携としては、学校開放事業や各種スポーツ大会開催の支援など、スポーツ活動機会の提供を行いました。

・無料体験レッスンを含むスポーツ教室の受講者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、前年と比較して増加しており、回復傾向が見受けられます。

・学校開放事業は、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へ移行したこともあり、前年と比較して約12%利用者数が増加しました。

・週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は42.7%となっており、昨年をわずかに下回る結果となりましたが、目標を達成しました。年代別に見ると、65歳以上はスポーツ実施率が50%を超えていますが、20～30代は仕事や子育ての影響かスポーツ実施率が低く、今後の課題と言えます。

・第7期においても、スポーツ活動に親しむ市民割合の上昇を目指し、多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めていきます。

基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進

【基本目標Ⅱで目指すこと】

市内のスポーツ団体を統括する組織の活動に協力し、市民が継続的にスポーツができる環境を整備し、地域スポーツを「ささえる」人材の育成・資質向上を図るとともに、個人の体力レベルや目的に応じた活動が選択できるよう情報提供と相談活動の充実を図ります。

また、スポーツ合宿の誘致を進め、アスリートとの交流を通じて、競技スポーツを「みる」機会の充実を図るほか、住民が主体的に参画する総合型地域スポーツクラブに対して広報活動等の支援を行い、地域スポーツ環境の充実を図ります。

さらに、保健・福祉機関等と連携し、情報提供や相談体制の充実を図るなど、健康づくりの面からスポーツを推進します。

◆成果指標2 スポーツ機会が充足していると思う市民割合

現状値（H29年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R5年度）
66.3%	70.4%	65.9%	69.9%	63.8%	70.7%	

指標：江別市まちづくり市民アンケート

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

- ・令和5年度は、地域スポーツ活動の活性化のためスポーツ協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、スポーツ推進委員を派遣して軽スポーツの指導・普及を行う軽スポーツ出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供しました。
- ・各スポーツ団体やスポーツ少年団は少子高齢化の影響がある中、会員数は減少傾向が見られますが、多くの団体が全国・全道大会に出場するなど活発に活動しています。
- ・7～8月には、全国高等学校総合体育大会（通称インターハイ）が北海道で36年ぶりに開催され、江別市ではホッケーと競泳の2競技を実施しました。令和元年以来、4年ぶりに新型コロナウイルス感染症による制限を受けない大会として、約20,000人の選手・関係者・観客が来場しました。
- ・9月には、競泳日本代表チーム（トビウオジャパン）によるアジア競技大会直前合宿が江別市内で行われ、交流会や練習の一般公開を通じて市民と交流しました。
- ・スポーツ機会が充足していると思う市民割合は70.7%となっており、目標を達成しました。
- ・各団体の活性化のため、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援や情報提供等の取組を継続して行い、スポーツによる「健康都市えべつ」の実現を図っていきます。

基本目標Ⅲ：スポーツ環境の整備・充実

【基本目標Ⅲで目指すこと】

市民要望を踏まえ、安全で快適なスポーツ施設の維持整備を計画的に進め、指定管理者制度により施設の管理を行っている団体と連携を図り、市民や利用者からの要望・意見を参考にし、適切な施設の管理運営を進めていきます。

学校施設や民間等の施設と連携し、スポーツ施設の有効活用を図ります。

◆成果指標3 スポーツ施設整備の満足度

現状値（H29年度）	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R5年度）
61.0%	65.5%	63.1%	65.9%	59.6%	67.6%	

指標：江別市まちづくり市民アンケート

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

- ・令和5年度は、市民体育館の給水設備や柔剣道室の床などの改修工事を行い、スポーツ施設の環境整備に努めました。
- ・7月には、あけぼのパークゴルフ場Dコース（9ホール）をオープンし、全36ホールとなりました。
- ・市内の屋内体育施設は建築から40年以上経過したものが多くことから、老朽化対策として、安全に配慮した改修整備を進めており、スポーツ施設整備の満足度は67.6%と目標を達成しました。
- ・第7期においても、引き続き市内体育施設の改修整備を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行います。